

予算額	4,968,540 円
-----	-------------

### トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	5 団体								
巡回指導先団体内訳	<table border="1"> <tr> <th>総合型クラブ</th> <th>スポーツ少年団</th> <th>学校</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>4 団体</td> <td>団体</td> <td>1 団体</td> <td>団体</td> </tr> </table>	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他	4 団体	団体	1 団体	団体
総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他						
4 団体	団体	1 団体	団体						

トップアスリート総数	4 名								
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	<table border="1"> <tr> <th>オリンピック</th> <th>国際大会</th> <th>全国大会</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>名</td> <td>2 名</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> </tr> </table>	オリンピック	国際大会	全国大会	その他	名	2 名	1 名	1 名
オリンピック	国際大会	全国大会	その他						
名	2 名	1 名	1 名						

アシスタントコーチ総数	4 名
-------------	-----

指導種目	サッカー、陸上、バスケットボール、器械体操
------	-----------------------

#### ◆効果高めるための工夫や取組など

- ・ サッカーにおいては、技術面から攻守における動き方や戦術についての理解に至るために、練習グループの人数が少ない状態から始めることで徐々に理解を深めていくことを目指した。また図にしている説明やマーカーやビブスを多用して、視覚からの情報も使って理解しやすくなるよう努めた。
- ・ 個々にランニングフォームの指導を行い、実際の走行に活かせるようにアドバイスをを行った。また中距離走をアスリート1人対子供複数人のリレーで競わせるなどしてトップアスリートのスピードを体感させることで将来の姿を想像して練習に励んでもらえることを目指した。
- ・ 器械体操においては、普段の練習に技術面や補強トレーニングのアドバイスを加えて各自が自主的に行えるように取り組んだ。また、試合に向けてのアドバイスを適宜行うことで全体の士気を高めるよう努めた。
- ・ バスケットボールにおいては、基本の動きを重点的に指導し、基本の大切さを体感できるよう努めた。

#### ◆成果と課題

##### 〔成果〕

- ・ (サッカー)  
全てのクラブにおいて攻撃時に必要とされる判断を伴う動き方について練習することを主眼として行い、理解して動くことができるようになる子どもが多く見られた。また、長野総合クラブにおいては、大阪府下で優勝し、今回の活動が活かされた結果となった。
- ・ (陸上)  
トップアスリートのスピードを体感することが日常では少ない子どもにとって、貴重な経験となり、早く走るための走り方を習得できた。
- ・ (器械体操)  
今まで挑戦することができなかった新しい技が行えるようになり、意欲的に練習に取り組むように
- ・ (バスケットボール)  
ボールハンドリングの基本を復習し、正しい技術を習得できた。また、それぞれの子どもたちなりの成長が見られた。

〔課題〕

- (サッカー)  
実力差があるため、理解している子とそうでない子が見られた。個人の反復練習に期待したい。
- (陸上)  
身のこなしに個人差があり、動作を習得するためには、いろいろな練習方法が必要であった。
- (器械体操)  
高校の体育館であったため、設備が不十分であった。そのため、指導できる技が限られてしまった。
- (バスケットボール)  
動作の習得、プレー中の判断など、経験が必要な種目のため、短期的でなく長期的なアドバイスが必要と考えられた。

地域課題解決に向けた取組

1	取組の名称	「生活習慣病予防、ロコモティブシンドローム予防(介護予防)分野」				
	趣旨・目的	ウォーキングが世の中でブームとなっているが、オーバーユースによってスポーツ障害発生への報告も少なくない。この取り組みでは安全にウォーキングを行うための方法、指導方法を総合型クラブ内で検証し、安全に運動を行う環境を整備する。指導方法については医療法人貴島会ダイナミックスポーツ医学研究所の支援を受けて実施する。 また、今回検証したプログラムを今後の活動に活かし、継続的な支援体制を構築する。				
	内容	大東市内の各集会所等において高齢者向けとの運動指導(安全な歩き方、足腰を守るためのストレッチング、筋カトレーニング等)を行った。				
	対象者	自立歩行が可能な中高齢者	参加人数/回	15名/回	実施回数	63回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウォーキングフォームや体力測定を具体的な数値で評価することで、トレーニングに対する意識付けをはかった。</li> <li>トレーニング効果を体感し継続してもらう為に、事後評価を行った。</li> </ul>				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な歩き方に対する意識が高まり、部位別のストレッチングや筋カトレーニングに対する知識が深まった。転倒予防に繋がるバランス能力についても同時に学習していただき、いつまでも元気に生活いただけるようにクラブとしてお手伝いすることができた。</li> </ul>				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続できる活動になれるかどうかが一番の課題である。自主的な活動に指導者が見守る形で関わると経済的にも継続可能と思われる。</li> </ul>				

2	取組の名称	「子育て支援分野」				
	趣旨・目的	就学前の集団活動に慣れるため、子育てについての不安、アドバイス等の共有を行う場として、運動指導者、保育士資格保持者等が実施する親子体操教室、幼児体操教室等を実施するものである。総合型クラブが地域にとって必要な場を提供しており、幼児から高齢者まで関わる地域の交流の場として活動していることを広く知っていただく。				
	内容	幼稚園、保育園、児童センター等において親子体操教室、子ども体操教室として実施する。具体的には動物のまね、跳躍動作、ボール遊び等で様々な動作を楽しみながら行える種目とする。				
	対象者	2歳半～未就学児童とその親	参加人数/回	20名程度/回	実施回数	38回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びを通して体幹部や上肢の筋カトレーニングを楽しく行えるよう努めた。また、問いかけを行うことで考える力を養うよう取り組んだ。</li> </ul>				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが楽しく参加できる運動に運動能力を向上させるための動作を取り入れたところ新鮮味があり、楽しく体を動かしている子どもが多くいた。運動が苦手だった子も活発に動いていた。</li> </ul>				
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>会場、園の都合上、時間が短く満足に活動できないところもあったため、事前打ち合わせ等でのさらなる調整が必要であった。しかしながら、今回行ったことでクラブ側が行う内容について、ご理解いただけたので、以降の実施があれば、さらに良い取り組みになるだろうと思われる。</li> </ul>					

## 小学校体育活動支援

派遣先学校総数	2 校
コーディネーター総数	4 名

### ◆効果を高めるための工夫や取組など

- ・ 学年や学級に分け隔てなく、コーディネーターとして活動しようと取り組んでいる。本来の目的は、小学校の先生方により良い体育授業を提供することである。そのために、あくまで授業補助として活動してきた。特に、学期途中から開始したことで授業展開の邪魔にならないように補助に徹した。授業前後に担任の先生から当日の内容をうかがい、こちらで提供できる資料を活用したりして頂いている。
- ・ 授業についていけない生徒をサポートする場合は、そのためのプログラムや運動を用意した。コーディネーターは、授業ごとに観察表を提出し、授業の様子、活動施設の状況等を確認している。
- ・ 全ての学級にコーディネーターを配置することによって、学校全体の体育活動に関わる状況を作り、より良いプログラムを提供できるよう活動している。そのために、学校内の体育主任と連携をとり、学校側の要望とコーディネーターとして協力できる部分をすり合わせている。
- ・ 特に、器械運動や陸上は言葉による指導だけでなく、見本を見せることができるコーディネーターが必要である。それは安全管理にもつながる事柄である。無謀な技に対する対処は専門家が対応した方が、即効性がある。

### ◆成果と課題

#### 〔成果〕

- ・ 全ての学級に入ることができ、小学校の実情に合わせた活動を実施することができた。
- ・ 学校との交流が生まれ、事業以外でも交流できるように打合せができた。
- ・ 見本を見せること、課題をこなせない児童に対して個別指導ができた。
- ・ 学校の教諭に新しい情報を提供できた。
- ・ 生徒の運動に変化が見られた。

#### 〔課題〕

- ・ 学校側の予定が変わることが多く、当日学校に行った時点で中止や変更を知ることがあった。
- ・ 「体育を指導しなくてよい」と考える教員が増えてしまうことは趣旨と反していると思われる。
- ・ 短期間ではなく、長期的な取組でないとなることが不十分となる恐れがある。

## 本事業全体の成果と課題

#### 〔成果〕

- ・ 中核クラブとして他の総合型クラブ、地域、小学校に対して事業を行ったが、各事業ともに好評であった。
- ・ 成果として総合型クラブでは子どもたちのみではなく、現場の指導員からも指導法の勉強になったとの声をいただいた。
- ・ 地域においては高齢者の運動に対する意識付けを高く持って行くことができ、幼児体操では身体を動かすことの楽しさを子どもたちが知るだけでなく、保育士、保護者からも運動に対する理解が深まったとの感想をいただいた。
- ・ 今回の事業を通じて地域の連携が強まるための最初の段階を行うことができたと考えている。

#### 〔課題〕

- ・ 課題として、なぜ総合型クラブが地域に必要であるかということを多くの方々が理解しているわけではないため、より一層地域に根ざした活動となるよう今後も進めていきたいと考えている。